

---

# 魔法少女リリカルなのは 絶対神になった少年

神夜 晶

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは 絶対神になつた少年

### 【NZコード】

N4324Z

### 【作者名】

神夜 晶

### 【あらすじ】

ある世界に、全てから拒絶された少年が居た。その少年の名は、  
神羅命しんらみこと 彼は、世界、運命、人間、その全てから拒絶された。

しかし、彼は生き抜いた……。自らが生きる希望の為に…… だが、  
世界は

それを許さなかつた。また少年を絶望の淵に落とすのだった……。  
今、自らの生きる光と希望を探す為に新たな物語を紡ぐ。

## 初めに

初めてまして！神夜晶と申します。

この小説が初めての投稿になります……。

ですので、駄文やぐだぐだに多々間違える所があるでしょう……。

それでも、暖かい目で見てやって下さい……。

作者は仕事してますし、超亀更新なので究極に遅いですが

完結はさせたいと思つてますので

それでも良ければ、どうか見捨てないで下さい……。

この小説は、オリ主転生物でオリ主最強物です

苦手な方は回れ後ろを……><

この小説は、作者の願望と妄想で書かれたものです

ですので、過度の期待とかせずにお楽しみ頂けたら幸いです……。

それでは……魔法少女リリカルなのは 絶対神になつた少年

始まりますー！

## プロローグ（前書き）

言い忘れてました・・・。  
私は、原作知らないんですね・・・。  
原作見てから書くかも・・・。  
初めての文章・・・。  
緊張しますね～・・・。駄文ですが見てくれると嬉しいです！  
でわ、どうぞ！

## プロローグ

「…………う…………ん、此処は…………？」

俺が気づいたら真っ白な空間に居た…………。

周囲には何もなく、ただ真っ白な空間だった。

「何故、俺は此処に居るんだろう…………。」

「あ、起きましたか？」

不意に、後ろから声を掛けられて咄嗟に振り向くと其処には…………。  
誰もが振り向くであろう絶世の美女が居た。

「あら? 嬉しい事を言つてくれますね／＼／＼

何故、頬を赤くしてるのであるつか…………。

この女は、誰だろう…………?

いや、今はそんな事どうでもいい、そう今は此処が

「何処なのか…………。と聞きたいんですね?」

何故、俺が考へてる事が分かつたのだろうか……？  
そもそも、何故俺はこんな所に居るのだろうか……。

「その問いには、私がお答えしましょう。」

「此處は、神王の間です。

ここには、私以外誰も入れません……。

そう、例え最高神だろうと創造神でも入れません。」

「わ、何故俺は此處に居るのだろうか……？  
神達が入れないのにどうして俺は入れるんだ？

「それは、私が貴方の魂を呼んだからです。」

「魂を呼んだ……？つまり、俺は死んだと言つ事か……？」

「……はい……」

「その女は、悔しそうな顔で唇を思いつきり噛んでいる……。  
何故、あんたがそんな顔するんだ……？」

「それも含めてお話ししますよ。」  
「では、まず貴方は今までの事を覚えていらっしゃいますか……？」

「今までの事……。つ……。確か、俺は……。」

「はい……。

貴方が住んで居た家に入っていた強盗に殺されました……。」

「……また俺は、守れなかつたのかつ……。」

「……」

女の顔を見ると悲しそうな目をしながらじりじり見ていた……。  
「……こいつは、俺を哀れんでいるのか……？」

「笑いたければ笑えば良いだろ……。」

「何一つ守れないこんな俺を笑えば……。」

「……フルフル……」

しかし、女は首を振る……。  
「……なら、何故そんな顔を俺に向ける……？」

「貴方の事は、ここで全て見てました……。  
貴方が産まれたその時から……。」

「こいつ何言つてんの……？」

「何で、俺何かを見るのが良く分からぬ……。」

「何故、貴方を見るかは、追々説明するとして……。  
ここに呼んだ理由を言つます。」

「理由……？ そんなの、簡単だろ……。  
どうせ、俺という存在を消す為だる……。  
さあ、早く消してくれ……。俺はもう生きたくない……。」

「消す為じやありませんよ。」

「私が此処に呼んだのは転生をしてもらひためです！」

「は……？ こいつ何言つてんの……。」

「もしかして、死んでテンプレ的なあれなのか……？」

「やうですね、そんな感じと認識してもらひて結構です。」

「でも、何故俺なんだ？他の奴でも良いだろ？」

「いえ、貴方でなければ駄目なのです……。  
そう、貴方でなければ……。」「

「さつき、俺の事を産まれた時から見てたって言つたな……。  
何故、俺何だ……？」

「それは、貴方がもう一人の私だからです。」

「…………は？」

「こいつ、頭大丈夫か……？」

「病院行かせた方が良いんじゃないか……？」

「私は頭がおかしくもないですし、別にふざけてる訳でもないです。

」

「じゃあ、もう一人の俺ってどういう事なんだ……？」

「貴方は、この宇宙の星ぼしの中に地球と同じ星がある事をご存知ですか……？」

「そんな、感じの事を聞いた事はあるけど……。」

「…………。  
そこでは、貴方が住んでいた地球と全く同じなのです……。」

「ふむ……。それで……?  
何が言いたいの……?」

「率直に言います……。そこで私は貴方と同じ種として生きました。  
ですが、貴方の過去である、あのよつな事は起きてほこませんでした……。」

「な……ん……だ……と……。」

俺は、絶句した、するしかなかつた……。  
あの恥々しい事が起きたのが俺だけだと……。  
やはり、世界は俺を余程嫌いと見える……。

「『』めんなさい……。」

「何故、お前が謝る……。」

「私は、産まれた時は人間でした。  
ですが、私は死なずに今の神王へとなりました……。」

「つまり、俺だけが世界に嫌われ……  
お前は、愛されたという事か……。」

「はい……。貴方が不幸になつたのを糧に  
私は、幸せになりました……。」

「あはは……。そうかそうか……。  
そういう事だつたのか……。」

「それは、貴方と同じ心に生きる希望として生きていたからでしょ  
う……。」

「それを、見た地球は貴方と死ぬ様に運命を変えた……。  
つまりは、全て地球が仕組んだ事か……。」

「はい……。」

確かに、貴方は何処の世界を通しても誰よりも不幸でしょう。  
ですが、貴方には此処から新たな人生が始まるのです！  
これから、生きる光や希望を見つけて下せー。」

「もひ、信じたくはないんだけどな……。」

「信じたくないのは痛い程分かります……。  
ですが、まずは私から信じてみてください……。  
人間がお嫌いでしたら、信じなくても構いません。  
でしたら、人間以外の者を信じてみてはどうでしょうか……？」

「…………はあ…………分かつたよ…………。」

「じゅあー。」

「ただし！もし、お前が裏切る様なら……。  
その時は、お前が俺を殺せ……。」

「…………良いな？」

「ええ、分かりました。私は絶対に裏切りませんけど……。  
そうしなければ、信じないのでしたら約束しましょう。」

「それで……？俺は、転生するんだっけ……？」

「はい！行つて貰う世界は魔法少女リリカルなのはです。」

「あー……。そんな名前のアニメ聞いた事あるけど……見た事はないんだよね……。」

「大丈夫ですよ。知識は上げるつもりですし力も上げますよ！」

「力……？戦う世界なのか……？」

「ええ、魔法がありますね……。  
その世界の中には結構強い人達が居ます。  
ですので、貴方には……チートを超えたチート転生者になつてもら  
います」

「……もう何も言つまい……。」

「それから、貴方にもう一つ大事な事を耳に通して頂きたい事が  
ります……。」

「……？」

「一つは、貴方が可愛がっていたミウちゃんの事です……。」

「…………！」

「ミウがどうかしたのか…………？」

「私の力でミウちゃんを私が住む星に来させました……。  
ですので、ミウちゃんは前世の様にとは、いきませんが  
魂は、ミウちゃんそのものですので、私が住む星に来れば  
いつでも、会う事が可能です…………。」

「…………。  
やうか、ミウが…………。

頼む…………ミウをどうか幸せにしてやつてくれ…………。

「ええ！勿論ですよ！」

「それで、一つは…………？」

「実は、いつもの方が大事です…………。  
私は、人々の感情で神になつたのです…………。」

「それがどうかしたのか…………？」

「分かりませんか……？」

もう一人の私が感情によって神になつたという事は貴方も何らかの形で神か神に近い存在になつたという事です……。」

「……俺も神に……。」

「それを、貴方が目覚める前から調べた所驚きの結果が出ました……。」

「それは、悪い意味でか……？それとも良い意味で……？」

「どちらもですね……。どちらから聞きたいですか……？」

ふむ、どちらからにしようか……？

それにもしても、俺が神か前では、ありえない事だらけだな……よし……。

「悪い方で頼む……。」

「分かりました……。」

貴方は死ぬ直前に力が欲しいと願いましたね？

その結果が裏目に出来ました……。

貴方の願いが……貴方を森羅万象へと変えました……。」

「は……？」

森羅万象つてあの森羅万象……？」

「はい。その森羅万象で間違いないです……。  
そして、後で心の中で森羅万象の事を思えば  
森羅万象の間へと導かれる筈です……。  
そこで、力を得る代わりに貴方は何か一つを誓わなければいけませ  
ん。」

「誓う? 何を……?」

「何かを得る為には何かを犠牲にしなければなりません……。  
ですので、貴方が誓うのは心です……。」

「心……。」

「そうです。心の一つを捧げる事によつて力を得ますが。  
ですが、決して孤独を捧げてはなりません。  
もし、捧げれば貴方は永遠に孤独を味わうでしょう……。  
捧げた心を、もし思えば貴方という存在は消え死にます……。  
そして、貴方に関わる全てが消えます……。」

「様は、捧げた心を思わなければ良いんだろ?  
樂勝じやね……？」

「いえ、甘く見てはいけません、絶対に思つてしまつ筈です……。  
ですので、普段思わない様な心の一つを捧げて下さい。」

「分かつた……。それで? もう一つの方は?」

「もう一つは、貴方がどの様な神なのか分かりました。  
貴方は……『絶対神』という神です。」

「絶対神……？ 聞いた事無いな……。」

「はい、絶対神というのは神達の間では神話になつてゐる程ですから。  
絶対神というのはですね……。」

絶対的な存在、絶対的な強さを持つ事からそう言われています。」

「想いつきり中一臭いな……。」

「確かに、そう思つでしょ? けど

絶対神になるといつ事は、私よりも神格が上なのですよ?」

「は……？ だつてお前神王だろ……？」

「確かに、私は神王です。

今の所私以上の神は存在しません。

ですが、貴方というイレギュラーな神が現れました。  
私が神王になつて以来のイレギュラーですね……。」

「お前つてイレギュラーなの……？」

「はい、今までゼウスやオーティーンなどの神達が全ての世界を治めてしましましたが

私というイレギュラーが現れた事によつて  
世界を治めるのが私になり、私と満足に戦える相手は誰一人居ません。

良い勝負を出来る者が居るとすれば……

私が住む星に居る者達だけでしょうね。」

「へえ……そなんだ……。」「

「後は、貴方でしょうね。

貴方が真に力に目覚め、力を使いこなせれば  
私と同じクラスに来れるでしょ……。

私が居るクラスは誰一人辿り着いた者は居ません。

ですので、貴方が来るのを楽しみにしております」

「あ、そう……。

それで、力くれるとか言ってたけど……何くれるの……？」

「そうでした、そうでした。

うーん……。基本的には、気、魔力、神力MAXにするんですが。  
そこは、絶対神なので、元からMAXで“神不老不死”みたいですね。

ですので、貴方の好きな力で良いですよ」

「…………？今聞きなれない単語出て来た様な…………。  
聞き間違いか…………？よし、聞いてみるか…………。

「なあ…………？神不老不死って何…………？」

「神不老不死というのは、何が何でも死がないという事です。

普通の不老不死は頭が吹き飛んだり宇宙に出て塵も残さず燃えれば死ぬんですが……。それが死ななくなつたと言えば分かりますよね

？」

「ああ…………。何をしても死なないって事か…………。」

「はい それで、どの様な力が欲しいですか？  
何でも言ってみて下さい！全て叶えられますよ  
何せ、私は魔王ですから！」

奴は、えつへん！とそのふくよかな胸を叩いた。  
ふむ……。何にしようか……？  
俺は、悩みに悩んだ挙句に数時間も掛けてしまったのは後から聞い  
た事だった……。

## プロローグ（後書き）

ぐだぐだと長くてすみません・・・  
次回にプロローグの続きを書きます^\_^  
どうでしたか・・・?  
駄文でしたし、所々間違つてないですか・・・?  
ともかく、読んで頂き有り難うございました。  
これからも宜しくお願いします！

## 転生（前書き）

どうも～神夜晶です。

プロローグの続編という訳ですが

今回で「転生させちゃいますね！」

でわ、どうぞ！

「うへん……良し決まった！」

「決まりましたか～？」

「へし……思いつ切りチートにしてやる……  
もう誰も田の前で死なない様に……

絶対守つてやる……

「まず、身体能力をDBG-Tの「ジータの50倍」してくれ！  
俺が見たアニメにやつたゲーム読んだ事のある漫画から  
全ての魔法と技と能力を使えるようにしてくれ  
後は、料理とか頭を良くしてくれ！-IQで！  
歌を歌う時にその歌にあつた声を出せるようにしてほしい！  
後、遊戯王カード全種類にデュエルディスクをくれ！  
勿論、召還する時は魔力で頼む！  
全ての楽器を神がかつて使えるようにしてほしい  
それで、アニメやゲームとか神の武器全部欲しい……  
難しい注文なんだけど……髪を自由自在に操れるようにしてほしい  
んだ！

髪の硬さも自由自在に出来るか……？  
最後に容姿なんだが……

「思いつ切りチートですね～……（笑）  
いや、最早バグチート……。

料理や歌もですか……？ 分かってますよ

カードで戻還するモンスター達は魔力戻還にしどきます。

大丈夫ですよ~ 髪の硬さもオリハルコンと同じ硬さに出来る様にしておきましょう~

……？ 容姿がどうかしたんですか……？」

「…………が良いんだ……。」

「はい？ どうしたんです……？」

「だから……男の娘が良いんだよ／＼／＼！」

「…………（。 。 ）

ふふ、分かりました

具体的には、どの様な容姿か決まりますか？

う～……別に男の娘でも良いじゃんかよ……（泣）

そこいら辺のむわ～オッサンよりマシだと思つんだが……

「最近、また連載始めたHUNTER×HUNTERのキャラクターで

アルカの容姿を頼む~髪は長くて足首位まで届く出来るか……？

黒もいいんだが……マンネリだからな……

後、髪の色は白色か銀色で目は赤くしてくれ~」

「分かりました～ 力を譲歩しますね～  
でわ、こきますよ……。」

神王はそうこうとひびひび手をかざして来た  
そして、俺の体が少し光った様な気がした……  
すると、どうだろ？ みるみる縮んでいくでわないか！  
見た感じは、100cm位か……？ 手小さっ！  
やはり、見る景色が違うな……

「それにしても……

小さくし過ぎじゃないか……？」

「その位が調度良いのですよ～  
身長高いと美女になりますし  
それに、その容姿だと美少女の方が似合つんですね！」

「確かに、この顔で身長高いと微妙だな……  
ふむ……やはり、髪長いし白いな……！」

「それは、良かつたです

あ、それから私のプレゼントで神の田を使える様にしちゃましたー。  
どこか、不愉快な所とか痛いところはありますか……？」

「神の目……？ 何だそれ……  
いや、無いな……。」

「やうですか、良かつた……

神の目とは、あらゆる物を見る」とが出来て  
伝説の勇者の伝説に出てきた複写眼に似てますけど  
こっちの方が性能が良く、複写眼は魔力しか見えないけど氣などの  
も見えるようにしました！

さつそくですが一つ提案あるんですけど良いですか……？」

「提案……？」

「はい。先程言つた通り私達は一心同体に近いです……  
ですので、姉弟になるのはどうでしょつか……？  
私が姉で貴方が弟で、これからお姉ちゃんと呼ぶと良いですよー！」

こいつ何言つてんの……やつぱり頭可笑しいんじゃないのか……？  
そもそも、生前に兄が居たけど……  
毎日殴られてたから憎いし嫌いだな……  
兄弟自体が嫌だな……。

「貴方の気持ちは分かります……  
ですが、家族というものは素晴らしいものです  
ですので、ここから始めましょう！」

貴方の物語は此処から始まるのですよ。」

「俺は、また信じてもいいのか……？  
裏切られないよな……？」

もうあんな家族に裏切られる思いをするのは嫌だ……。

「絶対に私は裏切れません……  
まず、私から信じてみてはどうでしょう……？  
貴方の傍に居ますし、貴方が助けを求めるなら助けましょう……。」

「…………… 分かつた……………」

「絶対に裏切らないでくれよ……？  
もし、もう一度裏切られたら……俺は……俺は……。」

「大丈夫ですよ……  
私は絶対に裏切りません！  
貴方を必ず幸せにしてみますよ……。」

「俺の頬から一粒の涙が落ちた……  
こんな気持ちは初めてだ……手を差し伸べてくれる者が居る……  
生前は、助けを呼んでも誰も助けてくれなかつたが……  
今はこの人が居る……。」

「有り難う……。」

「泣きたいなら泣いても良いんですよ……  
私が胸を貸してあげますから  
思いつきり泣いてください……。」

そう言いつと俺を抱き上げ胸に寄せた……  
俺は、号泣し声を上げて泣いた……。

「落ち着きましたか……？」

「ああ、有り難う姉よ……もう大丈夫だ……。」

「そうですか、それは良かつたです  
さて……そろそろ転生しますか？」

「実は、もう一つ頼みたい事があるんだが……  
良いか……？」

「はい！何でも言ってみてください」

「一つ目だが、此処で修行をさせてほしいんだ！」

「修行ですか……

何故ですか……？ 今や貴方は、素の状態で神さえも圧倒出来ますよ  
？」

「確かに、強いかもしない……

だけど、ただ強いだけじゃ駄目なんだ……

この力を完全に使いこなせて初めて最強になれる気がするんだ……。

「

「そうですね……分かりました

でわ、私が修行をつけてあげましょー！

ただ、私の修行は運悪ければ廃人、もしくは性格が変わりますよ……

？」

あっれ～……俺選択肢間違えたかな……？  
つていうか、何させるつもりだ……？

転生する前に、生き残れるかな俺……。

「大丈夫ですよ、そんなに厳しくないですから……

最初は優しくしますので安心して下さい!」

そう言つと、姉は俺を抱き上げた  
それにしても、抱かれるのは初めてだ  
あの入間達（親）には一回も抱かれた事無かつたからな……  
といつより、重くないのか……？

「大丈夫ですよ~

今の貴方の体重は、20?ですかりー!

な……に……そんなに軽いのか……

ふわあ~

俺は泣き疲れた性か眠い……

この体の影響もあるのだろう……

「眠いんですか？ 寝てて良いですよ~

修行する場所は瞬間移動で行くので一瞬ですが

時間は幾らでもあるので、ゆっくり寝てください

」

何だろ?この気持ち……暖かい……

生前では、こんな気持ち一度も無かつたのに……

この人なら信じても良いかも……

この人なら家族になつてみてもいいかもしけない……

「う……ん……

お休み……“お姉ちゃん”

「今は、ゆっくり休んでね……  
お休み、//トトちゃん……。」

「…………んう…………。」

「あ、起きましたか?」

俺が起きたら姉の顔がどアップであつた……

所謂、膝枕だ……

弟にそれで良いのか、姉よ……

「それにしても、ここは何処だ……?」

「ここは、“神の星”

ありとあらゆる神々と天使達が住む星です  
私の住む場所であり故郷でもあります。

そして、ここは時間の速が速いです

地球での1秒がここでは1年ですので、効率修行出来ますよ~!」

「神の星……

といつより、ここってそんなに速いのか!??

俺は、何時間寝てたんだ……?

つていうか年取ると身長伸びる筈なのに  
伸びてないだと……まあ、いつか……

「身長伸びないのはそれが限界だからです  
それに、ちょっとですが伸びてますよ~

……5cm位……

そして……

「これからは、ここがリコトちゃんの故郷になる星でもあります。」

今、姉は、リコトちゃんって呼んだか……?  
まあ、いつか……家族だしそれ位良いよな……?

「俺の……故郷……」

「はい 私と姉弟になつたんですから  
ここは自分の家だと思つてくつろいで下さいね~!」

「分かつた!」

「ああ、やつこよつか……

頼むから、廃人とか性格変わる事は止めてくれよ……？」

俺が少しビビリながら言つて

姉は、顔を横に向けた。

「つて

こつち見ろ！何故、横に顔を向ける……！」

「あはは～（笑）

冗談ですよ、冗談……ボソ（多分）」

「多分つて……」

やつぱり止め様かな  
…………

「大丈夫ですよ！廃人は嘘ですけど性格はちょっと変わるだけですって……。」

「何が“大丈夫ですよ！”だ……  
性格変わるだけで大丈夫じゃないし……」

「まあ、変わると言つても  
ミコトちゃんの性格がちょっと穏やかになるだけですから  
とにかく、これは確定なので逃げれません。」

穏やかになる位なら良いか  
まあ、強くなる代償とでも思つか……

「ああ、修行を始めましょー！」

「ああ！宜しく頼む！」

「そこ！頼むじゃなくてお願いしますでしょー！」

まずは、口調から変えなくてはね……（・・）ニヤニヤ

「い、嫌だああああ～  
誰か助けてくれええええ～……」

修行の間は飛ばします……

いつか、また書くと思います……（タブン）  
本当に、//コトヤさんの性格や話しかけ方を変えますので！  
そして、修行を始めて……

……暁1000万年……

「わーい……

これにて、//コトヤさんの修行を終わりにします  
お疲れ様でしたー良く耐えましたね、偉いですよー

「

「……。」

「どうしたんですか？」

具合悪いんですね？」

「“どうしたんですか？”じゃないよ……  
あんな事をしておこして良く聞えるね、お姉ちゃん……

「あんな事……？見に覚えないんですが（笑）」

「よく言ひよ……僕の能力を封じて魔力の玉の嵐を打つて  
“あはは～早く逃げないと体に穴が空きまわよ～”とか言つて  
追いかけて来たくせに……」

「あれは、//マチサヤんの回避と体力を上げる為にしたんですよ  
一石二鳥じゃないですか！」

「それだけなら、まだしも……  
女装までせるとはどういづれか……？」

「可愛いから良いんですー可愛いは正義ですー」

「何が可愛いは正義ですか……はあ……  
お姉ちゃん。そろそろ、転生するね……」

「やつか……分かりました  
一度、神王の間に行きましたよー  
//マチサヤん、おこで

お姉ちゃんが、わざわざ僕田線に会わせてくれ、手を広げて待ち構える

僕は素直に抱っこされる形になる

今や、僕は感情をある程度取り戻して来た  
だから、僕はお姉ちゃんに抱っこされると恥ずかしい……／＼  
生前僕は、多少感情はあったものの  
無口でいつも無表情だった……

神王の間に来た時は何故か感情が少しづつだけれど、戻つて来た  
お姉ちゃんととの修行の日々で、ほぼ感情を取り戻したのだ  
けど、困った事も逆にあった……

お姉ちゃんといつも寝ていた性か

夜寝れなくなつていたのとトイレに行けなくなつた事である……

(。 。 )  
どうして、こんな事に……〇 一

どう考へている内に神王の間に着いたらしく……  
一回お姉ちゃんとお別れか……寂しいな……夜寝れるかな……

「//」  
「お姉ちゃん? どうしたんですか?」

「あうあう

お姉ちゃんと一回お別れと思つて……  
ちよつと寂しくて……（泣）

「……（。 。 ）

ふふ……//  
でも、ちよつとの間だけですから…  
何十年後かには、会えますよ。」

「そつか……そうだよね？」

「それでね、1000万年前に言い掛けた  
一つ目のお願い何だけど……」

「はい、何でも言ってみてください！」

「えっとね、ゲームとかアニメからキャラクターを  
連れて行きたいんだけど良いかな……？」

「ほら、連れて行つたらその世界が壊れないかなって思つて……」

「大丈夫ですよ」　連れて行つてもOKですよ！

確かに連れて行つたら世界が変わりますけど

世界はそんな脆くないですよ！

だから、安心して下さい

「良かつた……僕の性で世界が壊れたらどうしようかと  
これで、生前で好きだったキャラクターを連れて行ける……！  
何か、楽しみだなあ　あの人達に会うのは……」

「それで、どのゲームのキャラクターを  
連れて行きたいのかな……？」

「えっとね、3人居てね……」

1人目が超次元ゲイムネームテューヌのネプテューヌさん！

2人目が魔界戦記ディスガイア4のアルティナさん！

3人目が東方Projectの八雲 紫さん！」

「（。。。）フムム……

ミコトちゃんのタイプはこの人達と……（・エ・〇）メモメモ」

「あうあう……//

そ、そんなんじゃないけど……//

確かに、好きです……//」

「そつか、この子達を連れて行きたいのですね？」

分かりました～ でわ、転生した後にこの子達を送つておきます  
ので

転生後に仲良くして下さい～でわ、いきます……ハア……！……！」

僕の体が光の粒になつていく……

体が動かないけど、これで次に進める……。

「違和感とか痛いところは、ないですか？」

「大丈夫だよ、お姉ちゃん

今まで有り難うね……こんな僕を必要としてくれて  
僕を愛してくれ！」

「ハア！」

「ゴンー！」

「うう……何するのー!?」

「もう……駄目ですよ?」

ネガティブになるのは、ミコトちゃんの悪い癖ですよ?  
これからは、家族なんですから！

神の星の子達もみんな家族ですよ！」

「……お姉ちゃん……（泣）」

「ほら、泣かない

それより、笑って下さいな！

少しの別れでも、別れは笑顔になつてほしいんですよ。」

「うん……うん……

「うでいい……？」

僕は、飛びつきりの笑顔をお姉ちゃんに送る  
そうだよね……ずっと会えない訳じやないし……  
頑張らなきゃ！

パアアアー！！

つー光が強くなってきた……

「……お姉ちゃんと過去した日々を忘れずに頑張りや！」  
お姉ちゃんの為にも僕がまた僕の光や希望を見つけられる為にも……

「じゃあ、そろそろ行くね……  
また会おうね、お姉ちゃん！」

「はい！次に会いつ時はもっと強くなつて下さいね  
そして、力を真に目覚めさせて戻つて来て下さこ！  
でわ、また会いましょう！」

「ひつじて僕は、魔法少女リリカルなのはの世界に転生したのであつ  
た……

## 転生（後書き）

駄文でしたね・・・すみません・・・

次に主人公設定が転生後投稿するんですが・・・

まだまだ本編入りそうにありません・・・w

読まれている方々ごめんなさい・・・

2話後には必ず本編入りますので！

それと、原作を細かく知ってる方教えてもらえないでしょ？

原作今から見ると投稿が物凄く遅くなりそうで・・・

是非とも、お願いします・・・vv

でわ、また会いましょう！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4324z/>

魔法少女リリカルなのは 絶対神になった少年

2011年12月17日19時48分発行